



論点整理

第三章 多様な子供たちを包摂する、
柔軟な教育課程の在り方 ①

児童・生徒の多様性を包摂する必要性

どの学校でも、多様な個性や特性を有する子供が在籍している実態が顕在化。
多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題

小学校（35人学級）・中学校（40人学級）

◆ 特異な才能のある子供	小学校 0.8人(2.3%)	中学校 0.9人(2.3%)	※1
◆ 学習面又は行動面で著しい困難を示す子供	小学校 3.6人(10.4%)	中学校 2.2人(5.6%)	※2
◆ 不登校	小学校 0.7人(2.1%)	中学校 2.7人(6.7%)	※3
◆ 不登校傾向	小学校 4.1人(11.8%)	中学校 4.1人(10.2%)	※4
◆ 家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向が見られる子供	小学校 12.5人(35.6%)	中学校 15.7人(39.2%)	※5
◆ 日本語を家であまり話さない子供	小学校 1.0人(2.9%)	中学校 1.3人(3.2%)	※6

【出典】内閣府総合科学技術・イノベーション会議『Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ』をベースに更新

※1 日本には定義がないため、IQ130以上を仮定し、知能指数のベルカーブの正規分布を元に算出。特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議アンケートを参考に編集

※2 文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（令和4年）」

※3 文部科学省「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」

※4 日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査（2018年12月）」

※5 文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査」

※6 文部科学省・国立教育政策研究所「令和3年度全国学力・学習状況調査」

孔子の説く四つの教え

し し も おし ぶん こう ちゅう しん
子、四を以って教う。文、行、忠、信。

（訳）先生は常に次の四つのことを大切なこととして教えられた。

それは学問と行動力と誠実さと信頼である。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）